## 「NTTグループが生んだテクノロジー「

# Windows操作ロボット「WinActor」で Windows操作ロボット [WinActor] で Windows操作ロボット [WinActor] で Windows操作ロボット [Windows操作ロボット [Windows操作ロボット [Windows ] [Window RPA 市場シェア No.1 へ!



新規契約を100社(しかも有数の大手企業・金融機関)獲得! 販売パートナーが50社増加! 掲載メディアも30社以上! ITアナリストが「クラウドの再来」と分析する RPA 分野の市場変化をいち早くとらえ、全社横断の RPA 推進チームを立ち上げて [WinActor] の普及・促進に取り組んできた、NTTデータ 第四公共事業部 RPAソリューション担当の挑戦を紹介します。

## 2016年から始まったRPAブーム

RPA とは、Robotic Process Automation の略称であり、「機械学習・ 人口知能・ルールエンジン等の最先 端技術を活用し、ホワイトカラーの デスクワーク自動化を実現する概 念」と定義されています。

ソフトウェア型のロボットが、Excel のデータを ERP に投入したり、Web の情報を検索して整理したりといった パソコン操作を人間のように実施する ことから、デジタルレイバー(仮想知 的労働者)とも言われています。

産業革命以降、工業では問屋制家 内工業⇒工場制手工業(マニュファ クチャリング) ⇒工場制機械工業と 生産性改革が進んできました。

一方のデスクワークについては、 シェアードセンター化やオフショア 化までは進みましたが、あくまでも 要員を大量に集めて作業費を下げる

WinActorの絶対的な強み

あらゆるソフトを自動化!

ユーザ部門が自ら扱える簡便さ

圧倒的に安い導入費・ライセンス

図1 「WinActor」の特徴

か、人件費の安 い国と地域に作 業を移すか、と いう発想であ り、工場制手工 業の段階であっ たと言えます。

ここに表れた のがRPAとい う概念です。労 働力人口の不足

への対応や、働き方改革の推進が求 められる中、デスクワークは人海戦 術しかないと諦めていた経営者層 や、単純作業を我慢して続けてきた 業務部門にとって、救世主的な存在 になっています。

#### 「WinActor (ウインアクター)」とは何か

「WinActor」は NTT グループが生 んだ純国産 RPA ソリューションで す。ソースコードを解析する技術や、

画面中の画像を解析する技 術などを駆使し、まるで人 間がパソコンを操作するか のように、パソコン操作を 自動化してくれます。

では、どのようなところ で利用されるのでしょう



株式会社 NTT データ 第二公共事業本部 第四公共事業部 第二統括部 RPAソリューション担当の皆さん

か。図2をご覧ください。例えば、 ① Web バンキングにログインして、 ②口座データを取得し、③データを 加工してEPRに登録する。あるいは、 ④ ERP を検索して、⑤振替データを ダウンロードし、⑥データを加工し て Web バンキングにて振替登録す る、といったパソコン作業を、業務 部門では日々実施しています。

「WinActor」であれば、ERP やク ラウドを改修することなく、このような 作業を自動化できます。しかも人間の



図2 「WinActor」が①~⑥のPC操作を自動実行

数倍の速度で24時間動作し、人間 と違ってミスも無いことから、業務効 率性や正確性の向上を手軽に実現す る手段として貢献しています。

具体的な活用シーンとしては、例 えば金融機関での融資や会員登録に 関する情報の基幹システムへの入力 自動化や、民間企業での請求書デー 夕入力自動化、審査業務の自動化等 が挙げられます。

【詳細は以下Webサイト参照】 http://winactor.com

# NTT グループが生んだテクノロジー

「WinActor」の元となった技術は UMS (Usukawa Manjuu System)といい、2010年に横須賀のNTTアクセスサービスシステム研究所で産まれました。いわゆる研究者のイメージとは違い、ユーザのパソコン操作負担を減らしたいと口にする、ユーザ思いの魅力的な研究チームです。

この UMS の魅力にいち早く気付き、「業務自動化ツール WinActor」という商品に仕上げて 2013 年度に世に出したのが NTT アドバンステクノロジ (以下、NTT-AT) です。

私たち RPA ソリューション担当は 2014 年度より「WinActor」の販売 を開始し、2016 年度に「RPA ソリュ ーション: Windows 操作ロボット 『WinActor』」として宣伝を強化、今 の「WinActor」に至っています。

#### オールNTTで「WinActor」を展開

RPA ツール市場は 2020年に 500億円/年規模に達すると言われ る成長市場だけに、海外製 RPA の日本市場参入も増えています。このRPA 市場でのシェア No.1 確保に向け、NTT-ATとアライアンスを組みました。2017年度より新たな体制で、図3のような、大きなスキーム構築に取り組んでいます。



図3 「WinActor」普及・推進体制

NTT-ATは「WinActor」の機能追加等、商品価値を高めるための取り組みに特化し、NTTデータRAPソリューション担当は、NTTグループ各社を含めた特約店の開拓と、特約店向けの営業支援や技術支援に特化するというものです。

図3のスキームに賛同するNTTコミュニケーションズをはじめ、NTT東日本、NTTドコモ、NTTビジネスアソシエとの共同営業や特約店契約調整が進んでいます。NTTグループで団結し、各社のビジネスに貢献できるように推進していきます。

# RPA(WinActor)普及・浸透の 課題

ユーザでも扱える操作性の良さを 最大の売りとし、「WinActor」には 年間 1,000 件を超えようかという 数の引き合いがきています。この流 れを途切れさせず、普及・浸透に繋 げるため、ユーザサポートの強化が 重要だと考えており、当 RPA ソリューション担当では、技術研修応用編の開催や、自習用チュートリアル教材の充実、サンプルシナリオの作成・提供等に取り組んでいます。

### RPA (WinActor) の今後の展開

RPAの今後を見据え、3つの取り組みを推進しています。1つめは「WinActor 英語版」のグローバル展開です。日系企業のグローバル化に伴い増加する海外支店や海外現地法人でのRPA導入要望に応えられるよう、海外向けのデリバリー体制強化に取り組んでいます。

2つめは当RPAソリューション 担当のコアコンピタンスである OCR技術や音声認識技術を駆使す ることで、RPAが扱える情報を拡 大することです。

3つめは AI と RPA の連動です。 例えば審査業務において、RPA が AI に質問を送り、AI が下した判断 に基づいて RPA が次のアクション を実行できるようになれば、審査の 判断から実行まで、一気通貫で自動 化可能となります。



図4 「WinActor」の今後の展開

RPA ソリューション担当は、RPA × AI により、国内外のお客様のビジネスプロセスにイノベーションを創出していきます。